

平成22年1月20日

人と環境にやさしいバスを目指して

～「感動を創造する」神姫バスグループの取り組み～



神姫バス株式会社

会社概要 (神姫バス株式会社)

(平成21年9月30日現在)

設立年月日 昭和2年8月8日

事業内容 輸送サービス事業、自動車関連サービス事業、生活サービス事業

資本金 31億4千万円

本社所在地 兵庫県姫路市

従業員数 1,591名 (グループ全体3,328名)

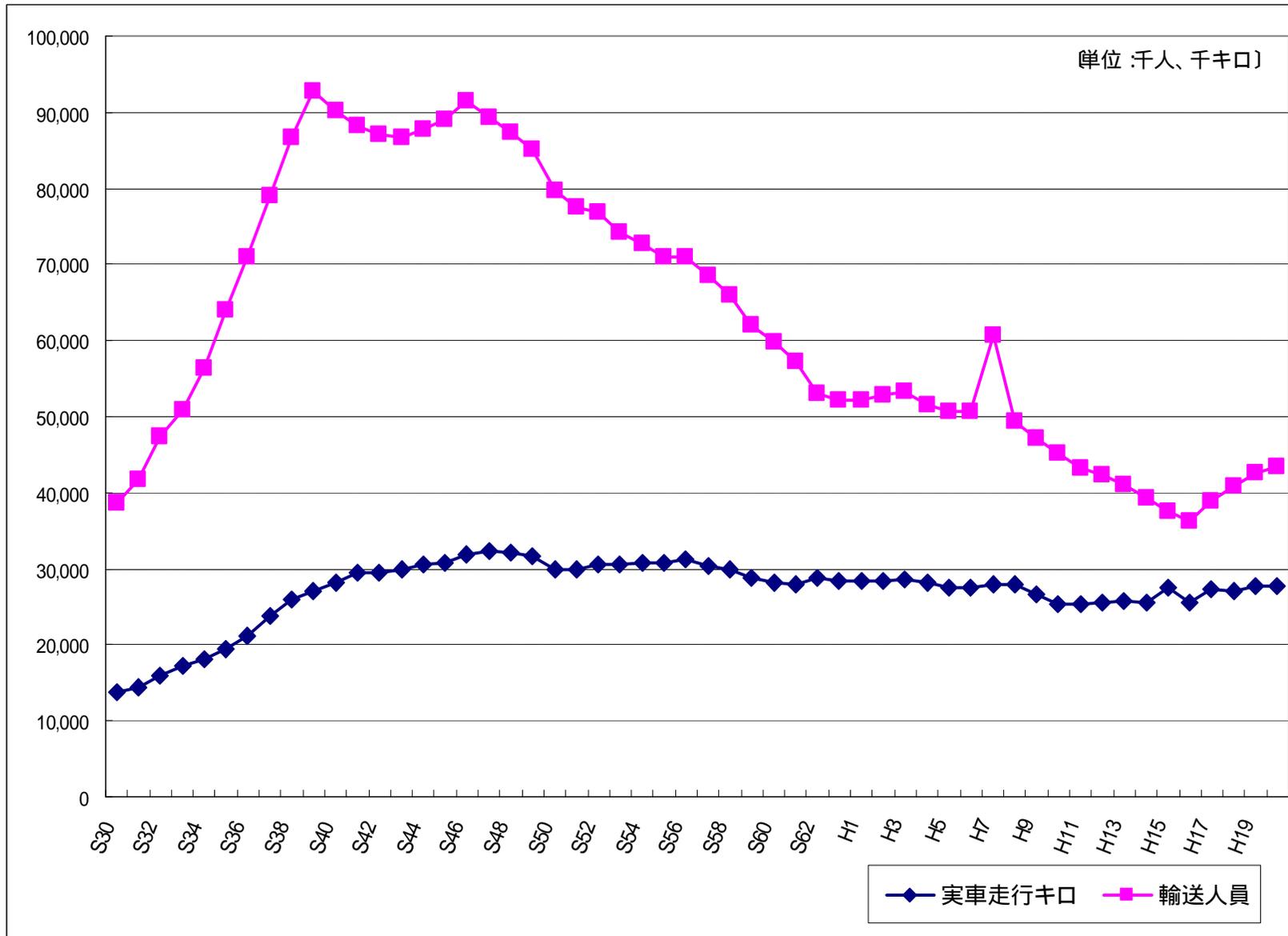
車両数 810両 (乗合747両・貸切25両・特定38両)
グループ合計1,077両 (乗合828両・貸切211両・特定38両)

路線認可キロ 5,679.6km (うち運行キロ4,970.7km)

運行系統数 901系統



輸送人員・実車走行キロの推移（一般バス昭和30年以降）



「地域の足を守る」

公営バス・JR等の撤退 縮小後路線引継ぎ

| 撤退事業者 | 実施時期および地域 | 規模 (車両数) |
|-------|------------------------|----------|
| 鉄 道 | H2.4 JR鍛冶屋線、H20.4三木鉄道線 | 8両 |
| JRバス | H14.4 篠山地区 | 7両 |
| 神戸市バス | H17.4 西神大久保線 | 25両 |
| 明石市バス | H18.10 ~ 大久保 高丘地域、藤江地域 | 25両 |
| 姫路市バス | H17.4 ~ H22.3 全路線 | 59両 |

沿線自治体のコミュニティバス運行 (公共交通空白地域の対応)

西脇市・加西市など13市2町90ルート(45両)を運行。

地域公共交通会議 県内41市町のうち27市町で開催

自治体・地元住民・交通事業者等のほか、運転者の組織する団体(労働組合)も参画が必須。

安全性よりも「価格」重視 (= 入札による事業者決定) の傾向



「お客様が利用しやすいバスに」



昭和58年 3月 **フリーバス (自由乗降バス) 運行**
過疎地域の利便性向上

平成 5年 6月 **低床バス (ワンステップバス) の導入**
・H21.12現在 ワンステップバス182両、ノンステップバス177両導入
(乗合バス全車両数の約4割強)

平成12年 9月 **ワンコイン運賃制度導入 (加古川駅周辺半径1 km以内)**
・平成13年10月に姫路駅周辺1 km地域においても導入

平成18年1月 **ICカードシステム導入**
・プレミア付 ICカード「NicoPa」利用による乗継割引導入。
グループ内 IC対応路線でも共通利用可能。
他社発行 ICカード (PiTaPa・ICOCA) でも運賃精算可能



その他の取り組み

- ・S48～ **高齢者等福祉優待制度 (回数券・乗車証) 導入** 現在は9市町導入
- ・H3.8 **深夜バスの導入 (ニュータウンの通勤需要対応)**
- ・H14.11 **時刻運賃検索システム のぞみNavi導入**
- ・H16.6 **姫路ゆかたまつり開催日の浴衣着用者に対する運賃割引 (50%引)**
- ・H20.10 **運転免許証自主返納者に対する運賃割引 (50%引)**

「環境への取り組み」

平成11年 4月 **環境定期券制度導入**

- ・土日祝に通勤定期所持者および同伴家族が運賃割引
- ・神戸市内で先行導入。平成13年7月に全線拡大。

平成15年以降 **環境にやさしいバスの導入**

- ・H21.12現在 CNG (天然ガス) 車両11両、ハイブリット車両8両

平成16年 9月 **ISO14001 (環境マネジメントシステム) 認証取得**

- ・神姫バスグループ全体の取り組み
- ・エコドライブ等の推進

平成21年 4月 **「エコ通勤」に取り組む企業のサポート**

- ・(株)神戸製鋼所加古川製鉄所 (H21.7 国土交通省より「モビリティマネジメントによるエコ通勤優良事業所」に認定。)
- ・路線および運行便数増。車両 20両増車により対応。

平成21年10月 **MM (モビリティ・マネジメント) 実証実験への参画**

- ・神戸市西神工業団地を中心とした通勤路線新設および増便



兵庫県『環境の保全と創造に関する条例』尼崎市・神戸市ほか流入規制H16.10実施。
NOx・PMどちらも規制。
H14.10 自動車NOx・PM法施行。H15.10 首都圏流入規制実施 (但しNOx対象外)
H21.1 大阪府流入規制実施

専用バス移行 マイカー通勤3300台減

神戸製鋼所加古川製鉄所(加古川市金沢町)は、従業員に通勤バスの利用を促し、約3300台分の自動車やバイクによる通勤を減らすことに成功した。二酸化炭素(CO₂)削減効果は1日当たり約8.7トンという。この取り組みが評価され、兵庫県内で初めて国土交通省の「エコ通勤優良事業所」に認定された。(松井 元)

エコで会社イコ

神 鋼
加古川製鉄所

同製鉄所には、関連・協力会社を含めて約1万1500人が勤務。通勤に使われる自家用車やバイクが約8千台あり、駐車場が不足していた。その対策と、周辺の渋滞緩和やCO₂排出削減を進めるため、マイカー通勤の従業員らに対し、可能な限り専用通勤バスを利用するよう求め

た。まず昨年7月、製鉄所から約5キロ離れた加古川市内の社宅・寮の居住者(マイカー・バイク通勤約600台分)をバス通勤に切り替え。同12月に通勤バス路線のバス停から1キロ以内の居住者(同約600台分)、今年4月にはJRと山陽電鉄の最寄り駅などから1キ

CO₂1日8.7トン削減 県内初、優良事業所に

以内の居住者(同約2100台分)を順次、バス通勤に切り替えた。

一方、JR加古川、東加古川駅などを拠点とする既存の通勤バス路線を増便し、路線新設も実施。当初は出勤29便、退勤40便の計69便だったが、これまでに出勤94便、退勤105便の計199便にまで増やした。

CO₂の削減量は、通勤距離を片道平均10キロとし、バス増便による増加を差し引くと、1日当たり約8.7トンになるといふ。今年7月、国土省が設けた「エコ通勤優良事業所」の県内第1号に認定された。

同製鉄所は「従業員の環境意識が高まり、環境を意識した生産活動にもつながるのではないか」としている。



マイカー通勤を減らすために増便された専用バスで通勤する神戸製鋼所加古川製鉄所の従業員ら(加古川市金沢町) (撮影・三津山朋彦)

参考 地方バス補助制度

乗合バス事業の収支状況 (平成20年度。単位 :百万円)

| | 一般バス | 高速バス | 乗合バス計 |
|------|--------|-------|--------|
| 経常収益 | 9,755 | 2,585 | 12,340 |
| 経常費用 | 10,547 | 2,406 | 12,953 |
| 経常損益 | 792 | 179 | 613 |

平成21年度は、景気低迷・新型インフルエンザの流行、高速道路割引等の影響を受け、さらに厳しくなる見通し。

地方バス路線維持補助金の推移

| | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 (申請額) |
|----------|-------------|-------------|--------------|
| 国庫補助路線 | 14系統 189百万円 | 14系統 175百万円 | 13系統 150百万円 |
| 県単独補助路線 | 42系統 202百万円 | 36系統 199百万円 | 31系統 201百万円 |
| 市町単独補助路線 | 39系統 170百万円 | 39系統 179百万円 | 40系統 208百万円 |

参考 高速バスの状況

高速バス路線の状況

50.12中国ハイウェイバス(津山～大阪)運行開始。H1.3姫路東京線、のち長崎・倉敷・広島線を開設。
H10.4明石海峡大橋開通により、神戸三ノ宮を中心に淡路島・四国各県への高速バス路線を開設。
現在、11都道府県へ16路線を運行している。

・主要都市をダイレクトに結ぶ交通機関として、利用客数は順調に推移していたが、競合路線の増加や貸切形態によるツアーバス参入および景気低迷の影響を受け、輸送人員は横ばいあるいは減少傾向にあった。なお、地方バス事業者が高速バス路線を運行する場合は、特に「**高速バスの利益を地方バス路線の維持に充当(内部補助)する仕組みにより、公共交通ネットワークを維持する**」ことも大きな理由の1つと言える。

高速道路土日祝ETC割引(上限1,000円)による影響

輸送人員の大幅な減少

H21 GW 前年より21.1%減(最大30%減)
お盆期間 前年より15.3%減(最大23%減)
年末年始 前年より10.2%減(最大21%減)

収益大幅な減少。内部補助の仕組みが働かず、地方路線が維持困難になり休廃止が加速する恐れ。

道路渋滞による影響

H21 GW 最大600分の遅延
お盆期間 最大315分の遅延 但し静岡地震の影響も含む
年末年始 最大120分の遅延

予備要員確保のためのコスト増のほか、定時性が確保できず、バス離れが加速する恐れ。